

2024年7月29日

報道資料

一般社団法人電子情報技術産業協会

Green x Digital コンソーシアム、
「CO₂可視化フレームワーク (Edition 2.0)」および
「データ連携のための技術仕様 (Version 2.0)」を公開

一般社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA : 代表理事/会長 津賀 一宏 パナソニック ホールディングス株式会社 取締役会長) が事務局を務める Green x Digital コンソーシアム (読み: グリーン カケル デジタル コンソーシアム) は、サプライチェーン CO₂データ^{*1}見える化の実現に向け、CO₂データの算定方法や共有方法 (データ品質開示方法) を提示する「CO₂可視化フレームワーク (Edition 2.0)」、およびデータ項目・共通データフォーマット・API 等の連携仕様を提示する技術文書「データ連携のための技術仕様 (Version 2.0)」を公開しました。両文書は 2023 年に同コンソーシアムが公開した文書の改訂版で、国際的な議論の最新状況の反映や、日本国内における政策・産業動向を踏まえた更新が含まれています。サプライチェーンを構成する各企業が両文書を活用することで、企業の CO₂ 排出量削減努力が反映される形で CO₂ データが流通し、CO₂ 排出量の削減に向けた企業間の協働 (エンゲージメント) 促進が期待されます。

今回の改訂では、先行する国際的な枠組みである WBCSD Partnership for Carbon Transparency (PACT) ^{*2}による Pathfinder Framework、および Technical Specifications for PCF Data Exchange の更新を踏襲しています。また、同コンソーシアムの見える化ワーキンググループ (主査 稲垣 孝一 日本電気株式会社) が 2023 年 6 月までに実施した共同実証の検証結果も反映することで、よりサプライチェーン上の企業にとって利便性を向上させた内容となりました。

今回の改訂を経て、サプライチェーン上のあらゆる企業がデジタル技術を活用した CO₂ データの算定・共有がより容易となり、気候変動関連の情報開示や CO₂ 排出削減対策、顧客等に対する環境価値の訴求といった企業の脱炭素施策が促進されます。今後、同コンソーシアムでは社会全体へより使いやすく普及を推進すべく、両文書の活用方法を実務者目線で解説する教育セミナー事業も展開予定です。今後の取り組みにつきましては、随時発表いたします。

主な改訂内容 : CO₂可視化フレームワーク Edition 2.0

1. Pathfinder Framework と統合した「製品ベース算定」の方法論整備

- ▶ 日本国内の制度やアクセス可能なデータを活用して、Pathfinder Framework Version 2.0 と統合した CO₂データ算定を行うための方法論 (製品ベース算定と呼称) を整備

2. 簡易な一次データ算定手法としての「組織ベース算定」の方法論の提供

- ▶ 一次データ活用の参入の間口を広げるため、スコープ 1、2、3 排出量などの組織ベースのデータを活用した CO₂データ算定 (組織ベース算定と呼称) の方法論も提供

詳細は Web サイトをご参照ください。

CO₂可視化フレームワーク Edition 2.0 : https://www.gxdc.jp/pdf/CO2_VisualizationFrameworkEdition_2.0.pdf

主な改訂内容：データ連携のための技術仕様 Version 2.0

1. データ項目の構成

- CO₂可視化フレームワークの改訂に即し、データ項目を更新
- グローバルなデータ連携を可能とするため、Technical Specifications for PCF Data Exchange v2.1.0 との整合を確認

2. API 仕様の構成

- CO₂可視化フレームワークの改訂に即し、データ品質評価指標等の仕様を追加
- エラーレスポンスの処理など、実装時の記述例を追加

詳細は Web サイトをご参照ください。

データ連携のための技術仕様 Version 2.0 :

https://www.gxdc.jp/pdf/technical_spec_2.0.pdf

*1 CO₂データについて

本プレスリリースおよび CO₂可視化フレームワークにおいては、IPCC が定める温室効果ガス排出量（GHG 排出量）の CO₂等価量（kg-CO₂e 等と表記される）を指す。二酸化炭素以外の温室効果ガスを含む。

*2 WBCSD Partnership for Carbon Transparency (PACT) について

WBCSD（持続可能な開発のための世界経済人会議）は、持続可能な開発を目指す企業約 200 社の CEO 連合体。GHG プロトコルの主催団体。Partnership for Carbon Transparency (PACT) は、WBCSD の下、バリューチェーンにおける排出量の透明性を高めて脱炭素化を加速することを目的として活動。排出量データ交換に必要な方法論と技術仕様を定義し、Pathfinder Framework ならびに Technical Specifications for PCF Data Exchange として公表中。Green x Digital コンソーシアムは、PACT のエコシステムに参画。Web サイト：<https://www.carbon-transparency.com/>

■ Green x Digital コンソーシアム（グリーンカケルデジタルコンソーシアム）

環境関連分野のデジタル化や新たなビジネスモデルの創出などの取り組みを通じて、2050 年カーボンニュートラルの実現に寄与することを目的に、2021 年 10 月に設立。サプライチェーンにおける CO₂ 排出量の可視化や再生可能エネルギー導入などをテーマに会員間の共創促進を図る活動を展開する。座長は越塚 登（東京大学大学院 情報学環 教授）。会員数は 151 社（2024 年 6 月 3 日時点）。Web サイト：<https://www.gxdc.jp/>

【本件に関する企業関係者からのお問合せ先】

Green x Digital コンソーシアム 事務局

（一般社団法人電子情報技術産業協会 事業戦略本部 グリーンイノベーション部）

E-mail：green_digital@jeita.or.jp